

# From New York

Vol.10

世界の街の“今”を、現地からお届けします



文/FIFTH New York Office (<http://www.fifthwiki.com>)

最近、何かとメディアを騒がせている、世界最大のソーシャルネットワーキングサービス「フェイスブック」。創業の舞台裏を描いた映画『ソーシャル・ネットワーク』は、アカデミー賞にノミネートされ、関係者から高い評価を得ている、賞獲得の有力候補の作品です。日本でもこの映画が公開され、「フェイスブック」はおなじみとなりました。

創業者のマーク・ザッカーバーグは、タイム誌で「2010年の顔」に選ばれています。フェイスブックの加入者は推定5億人と言われ、アメリカでは30歳以下の90%がアカウントを所有していると言われるほど、巨大な組織となったのです。さらに、IPOを担当した金融大手のゴールドマン・サックスとロシアの投資会社が同社に5億ドルを出資し、フェイスブックの時価総額は推定500億ドルに膨れ上がりました。

筆者も8年前からフェイスブックに加入し、友人との近況はもっぱらフェイスブックを通じて報告し合い、コミュニケーションの主要ツールになっています。ほとんどのユーザーにとって、フェイスブックは生活の一部になっていますが、はたして本当に同社に時価総額500億ドルの価値があるのだろうかという疑問はわきます。

もちろん、フェイスブックの資産はその膨大なバーチャルネットワークであり、世界の12人に1人はつながっているとタイム誌は発表しました。この巨大なネットワークが1か所に集い、実名で個人情報を公にしているのですから、企業にとってはターゲット広告が打てる格好の場ではあります。

しかし、ユーザーは個人情報がフェイスブックの提携企業に流出しているという認識を持たなければいけません。アメリカで掲載された「10 Ways Facebook Can Ruin Your Life」(フェイスブックが私達の人生をダメにする10の弊害)という記事の一部を挙げてみましょう。

#### 1 保険会社に支払いを拒まれる

うつ病で労災補償を受けていた女性が、フェイスブックに笑顔の写真を載せていたことから、保険金の支払いを中断させられた。

#### 2 離婚で不利な立場に立つ

離婚申し立ての5件に1件は、フェイスブックに載せた写真が証拠として提出される。

#### 3 就職の際、不利になる

就職が内定した者でも、フェイスブックの写真や文章の書き間違い等で、採用を見合わせることもある

#### 4 家族に秘密がばれる

フェイスブックの友人関係から、ゲイであることが発覚した。

友人はバツイチであることを内緒にしていたのですが、フェイスブックを通じて前夫から連絡を受け、今のご主人にばれてしまったと嘆いていました。自分のプライバシーをフェイスブックで公開することは、たとえ公開先を友人限定したとしても、その情報が自分ではコントロールがきかないほど広がり、非常にリスクなことなのです。

